

七里小通信

2021年7月20日(火) No.8 七里小学校長 中島克明



元気に夏休みを過ごしましょう

本日で1学期終了です。終業式では、1学期のできごとをスライドで見ながら振り返りをしました。子ども達のがんばる姿や明るい笑顔の写真を見ていて感じるの、いろいろな取組をとおして少しずつ成長していることです。本当にうれしいことです。そして保護者の皆さまはもちろんのこと、地域の方々にも学校が支えられていることです。皆さま、ありがとうございました。

明日から夏休み。子ども達には、事故に気をつけて元気に過ごしましょう、宿題をきちんとやりましょう、お手伝いができればいいですね、こんな話をしました。しばらくの間お別れになりますが、2学期の始業式には元気いっぱい登校してほしいと思います。

ビオトープ学習(4年 7/14(水)環境学習)

「トンボと自然を考える会」の杉村光俊さんをお招きして、4年生がビオトープで環境学習を行いました。小さなビオトープですが、様々な種類のトンボやカエル、ヤゴ、イモリなどが生息していました。オオシオカラの産卵シーンも見ることができました。学校周辺でよく見かけるイモリは、全国的には絶滅が危惧されているそうです。



オオシオカラの産卵シーンを見えています

車いす体験学習(5年 7/15(木)福祉学習)



トイレの開閉は難しかったね

社会福祉協議会の方々のご協力により、5年生が車いす体験をしました。はじめは車いすに乗ることを楽しんでいただけでしたが、スロープの上り下りやトイレの扉の開閉、段差の上がり下りの難しさを実感し、車いすで生活することのたいへんさを感じ取っていました。スロープや段差での介助の仕方も教えていただき、いろいろな方法を身につけることと同時に、相手への思いやりが何より大切であることを学びました。

着衣水泳(5・6年 7/19(月))

四万十川財団の方々のご協力により、水の事故から身を守る学習・実技を行いました。

教室での学習では、川や海に誤って落ちた時には、流れに逆らって泳ごうとせず、まず上向きに浮くことが大切であること(最近の服や靴は材質的に浮くので脱がない)、また、海で離岸流に巻き込まれた時には、岸に向けて無理に泳ごうとせず、横に逃げるとよいことを学びました(人は落ちた所に戻ろうとするとのことです)。



浮いて待つ練習です

おぼれている人を助ける時、まずすべきことはペットボトルなどの浮く物を投げることで、水に飛び込んで助けようとするのは最後の手段だそうです。

プールでの実技では、着衣のまま泳いでみて、その泳ぎにくさを実感しました。次に、水の上に浮き、助けを待つ姿勢の練習をしました。ペットボトルがなくても上向きに浮くことができ、人間の体が水に浮くことを実感できました。